

横川左俣

上

一九八二年八月一五日

一〇時四〇分、下降開始。急な斜面をブッシュにつかまりながら沢まで降りる。炭焼き釜跡を見ながら細い流れについて下る。一一時一〇分、

横川左俣本流出合。

左俣本流は極めて平凡。標高差のない所を右に左に屈曲しながら流れているだけ。そんな流れが中俣出合まで続く。

中俣出合で昼食。この下に滝があることは、この前中



横川にて

俣を下降した時に確かめてある。あの時はすぐ踏跡に上がってしまったが、今日は最後まで沢を降りることにしている。

まずは四割の滝。右岸を慎重にク

ライミングダウン。ところが大きな釜に行きづまる。無理にへつろうとして、二人ともドボン。胸まで水につかってしまった。

続いて八割の滝。左岸を下る。花崗岩の滝で、ホールドは豊富。節理面に従って岩が割れ、格好のホールド、スタンスができています。

続く一〇割は、左岸の今は水の流れていないかつての河道を下る。かつての河道といっても、二段の滝の形になっている。このあとしばらくは小さな滝ばかりとなる。

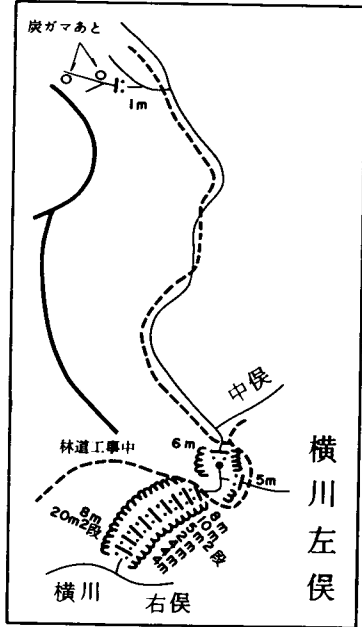
空模様がおかしくなってきた。よりによって暗いゴルジュ帯の中。写真を撮ろうとしたが、絞り開放で一五分の一秒でしかシャッターがきれない有様。舞台装置満点で、このゴルジュ帯にはすみさえ感じられてきた。

小滝をいくつか越えて、八筋の滝。これはちよつと下

れない。左岸を捲く。その下の二〇段の滝も左岸を捲く。登ることはできるかもしれない。

ゴルジュ帯はこれで終了。すぐ右俣が合流する。

〔タイム〕 下降開始(一〇:四〇)↓



左俣本流(一一:二〇)↓中俣出合(一二:二五)↓右俣出合(一三:〇〇)

山葵沢

L_{III}

一九八二年八月一五日

林道工事のため、出合は様相が一変していた。崩された土砂が沢を埋めてしまっている。何と雑な林道の

造り方であろうか。緑の番人を自認する営林署であるが、我々の目から見れば、緑の破壊者の一人である。

山で出会った動物たち①

ニホンカモシカ

深山幽谷のイメージがつきまとうニホンカモシカ。摺上川流域には多数生息している。それだけ自然が残っていることの証明だろうか。

この地域のどこを歩いても見かけるし、時には、集落のすぐそばまで出てくる。こちらの姿に気づくと、ちよつと立ち止まり、こころもち首を曲げ、愛くるしい瞳でじっと見つめる。沢筋は通り道としてよく利用されているのか、沢登りをやっている、三回に一回程度の割合で見かけた。

(西)